



# ボランティア紹介リレー

第21回

今回は、『千秋「桜守ワーク」の会』の坂本吉三さんからお話を伺いました。

## どんな活動をしておられますか？

いちい信金スポーツセンター(愛知県一宮総合運動場)に植えられている桜を守るため、年2回(春・秋)の清掃活動や、苗木の補植活動を行っています。

清掃活動の企画はこれまで32回を数え、最近では約500人にもものぼる多くの方の参加を得て活動を行っています。



親子連れでの参加も増えていきます

## 活動を始めた経緯は？

桜を植樹した「尾北ライオンズクラブ」が2005年に解散となってしまいました。当時会長だった私は、“一宮市の新たな桜の名所にしたい”との植樹当初の想いを受け継ぎ、有志数名で同年に『千秋「桜守ワーク」の会』を設立しました。

当初は20~30人での活動でしたが、活動を重ねるごとに地域の団体や企業などの賛同の輪が広がり、参加してくださる方も、施設利用者や地域の方々、その方のご家族など徐々に広がってきました。



満開の桜  
これも活動の成果です

## 活動を継続することにご苦労はないですか？

活動を始めて15年以上が経過していますが、大変だと感じたことはないです。活動頻度が多くないからですかね(笑)。活動の広がりや、毎回活動を楽しみにしてくださっている方を目の当たりにして、継続することの大切さを実感しています。新型コロナウイルス感染症の影響で今年の春の活動は中止となってしまいましたが、できる形で続けていきたいと思えます。

## 市民の皆様へひとこと

子どもさんがたの参加も増え、小さい頃からボランティア活動に触れることは非常に大事だと感じています。ボランティア活動に参加できる身近な場として今後も活動していきますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。また、桜の咲く頃にお立ち寄りください。

## 取材を終えて

想いをつないでいくこと、継続することの重要性を、再確認させていただき取り組みで、人や企業・団体の共感を生み、活動が育っていく、「協働」の成功事例だと感じました。これからも活動を続けて、ボランティア活動のやりがいや楽しさを、地域から発信し続けていただければ幸いです。

## おすすめふくしの本

# なまけてなんかない!

品川 裕香/作 北原 明日香/絵 岩崎書店

主人公のりんぞうくんは、活発で優しい男の子。

小学1年生になり、どんな勉強をするかわくわくしていましたが、前の日に習ったひらがなが読めません。りんぞうくんは、自分を「ばか」だと思いこみ、楽しかった幼稚園に戻りたいと、泣きながら幼稚園にたどり着きます。すると、りんぞうくんの話に耳を傾けてくれる人がいました…。

文字の読み書きの学習障害、「ディスレクシア」。当事者である主人公の男の子の苦悩と努力する姿を通して、「ディスレクシア」の理解ができる作品です。

図書館で借りることができます。

